

長崎高教組新聞

発行 長崎高教組新聞
〒850-0013 長崎市川中2丁目2番5号
長崎高教組新聞編集委員会
編集責任者 小田 誠
購読料 一部10円
組合員は組合費に含む
メールアドレス naga-kks@fslinet.or.jp

「第13回 子ども教育を考えるフォーラム」

フォーラム 学校の魅力とは

2月25日、長崎市民会館6階会議室で「子どもと教育を考えるフォーラム」が開催され、高校生5人を含む40人が参加しました。また、「つどい」に先立って、民主教育推進委員会が実施した事前アンケートには、50人を超える先生方から回答をいただき、先生方の思いを確認することができました。

「つどい」では、4人のパネリストから、一人ひとりの子どもが学校で成長してほしいこと、学んでほしいこと、子どもが再出発を図ることができる学校の創造などについて提起されました。その後、質疑応答を交え、フロアから多くの発言がありました。子どもが輝く、主人公になれる学校のあり方を参加者で考えることができました。



「つどい」の様子

森文明さん(元高校教師・平戸九条の会事務局長)

学校の魅力とは何か、無いとすればなぜなのか。魅力をどうつくりだすのか。鹿町町がワークシヨップ『なぎさの伝習所・ながさきちんぐ』を93年以来26回開催している。小4から中3まで全国から参加。家作り、磯遊び、昆虫探し、おせち料理づく

りなどこれまで80種類のワークシヨップをおこなない、参加者総数1640人以上になる。今の学校に不満や疑問を持つ親が子どもを参加させる。遊びを体得することで集中力を身につける。遊びを通して知りたい、学

びたいという欲求がでる。普通の学校、法律上の学校ではできないことをする。公教育のイメージは依然として甲子園か東大で、競争を煽る構図に教師も子どもも巻き込まれている。『批判力』を身につけさせアクティブ・ラーニングを徹底的にやる。教育のおおもととは民主主義を教えること。

松野尾干津子さん(鳴滝高校スクールソーシャルワーカー)
一人ひとり好きなもの、好きな場所を持っている。それがその子の強み。それを見失うと不安になる。それを感じるができるまなざしを持つこと。まなざしとは、傾聴(受容・共感・肯定)すること。子どもも大人も魅力を見出すことと見いだす力をもちたい。5人の高校生が好きなこと、嫌いなことなどしっかりと発言したことは頼もしく思った。日本の未来は明るいと感じた。

宮本鷹明さん(若者総合相談センター「ゆめおす」センター長)
高1の時、不登校になった。先生は学校に来ることを前提に話す、何でと思った。スクールカウンセラーと会わせられて「あんた誰？」という気持ち。不登校の子から見ると学校に戻る期間が短い。3ヶ月休んだら進級できない。教員は1年休職で

きる、大人は転職できる、子どもは転校しにくい、大人より子どもが過酷。子どもは学校に付随する『外』(友だちとの遊び、部活、バイトなど)で成長する。決して授業だけではない。スマホは行かなくても『つながる』昔はそこに行かなければ『つながり』がでなかった。不登校の友人へどう接すれば良いのかという高校生の思いに安心した。なぜ学校に行くのか、困るから行く、でも授業の部分的締め付けが多すぎるのではないかと、子どもたちがライブプランの話もしてほしい。

藤木久美子さん(青年劇場俳優)
今日の会のため『金魚』という詩を作った。いつもおしゃべりなスカートというものがずっと後にわかった。『島』という劇で金魚先生と、『つながり』という言葉、教員は、いつかどこかでつながる。人は想像力を持っている、そこを豊かにするには、その方法は？ ○○である前に人間なんだということが大切。創造的なものをどう作るか、なぜ役者になったのか自問自答している。社会との繋がりはとても強い。支え合い、協力して作り上げる。見つけてあげることも大切。自分の頭で考えて、自分の足で歩けるようになる。今日のような話し合いがずっと続いていることを嬉しく思う。

【参加者の感想文より】
高校生の感想
今やっていることが将来どのようなふうになるかわからないけど、自分が意欲を持って学んだことは必ずなにかにつながるというのを知ることができた。今回のように大人の方たちの話を聞く機会や自分の意見を言う機会がなかなかないので、参加できてよかったなと思います。教育というところが大きくな話のように思えますが、一人の人間として先生方も生徒と関わってくれたら嬉しいなと感じます。
先生からプリントやテストをしてと言われたときは、社会にぼくはつながると思う。例えば上司から先輩に書類を出してと言われたときも、今やっていることを生かしてすれば習慣的にできると思う。
なぜそのような校則があるのかと思うことが時々あって、その理由がないのに、その校則があるのかが自分でもわからない。しっかりと理由を言ってもらいたいと思った。
パネリストの方や先生方のお話が聞けたのはとてもいい機会となりました。先生方は多忙のなか、私たちのためいろいろと話を聞いてくださると思う。ありがとうございます。



「つどい」の様子

一般参加者の感想
5人の高校生からの生の声を聞いたのは大きな収穫だった。子どもたちが制度について持っている不満をはじめとして、しっかりと向き合ってもらいたい。授業を充実させ、少しでも「楽しい」「もう少しく考えてみたい」と思ってもらえるものにしてほしい。最後にAL頑張ります。
学校の魅力は探せばいくつでもたくさんあると思う。しかしその魅力はあくまでも大人の視点だと思ふ。今の学校のシステムに順応できない子にとっては苦痛。集団よりも個人を深めた時期があり、そんな時は学校には魅力はない、これはしょうがないと思う。深めたい時に深められないのが今の学校のような気がする。遊びが中心の学校、テストも評価もない学校。そんな学校が増えてほしい。できれば公教育に。
子どもも先生も一人ひとり違う、その違いを受け入れられる学校が魅力のある学校という言葉が印象に残った。一人ひとりみんな違う。それぞれ得意なこと、いいところがある。それが認められみんなが輝ける場所がある魅力ある学校だと思います。

大変魅力あるテーマだと思ふ。子どもが期待する「魅力ある学校」。それに響きあう、応答するような現場からの声がさらに噛み合うとより充実した会になると思ふ。次回を期待したい。
今回のテーマであれば、学校が嫌いな生徒とか一般の人が求めている、感じている魅力という発言が聞きたかった。
高校生やパネリストの方々に、一人ひとりもつと深く話を聞いて対話をしたかった。時間がとても短かった。生徒一人ひとりの違いを、その部分をたくさん作り出していける教員になりたい。忙しいけれど、生徒との何気ないおしゃべりも含めて、妥協せずに向き合ってもらいたいと思ふ。アクティブラーニング、TOEIC、電子黒板を使える、また1から10まで丁寧に教える人が良い教師と思われている。いやそうではないという先生が増えてほしい。それが民主的な学校でしょう。
いろいろな生徒がいてもいい。そのためにはいろいろな先生がいてもいい。本当はそれでもいいのに、自分らしいを生徒も先生も發揮できない現状がある。みんな本音で語り合うことが大切だと感じた。
学校が自分に合わない生徒がいるのは当たり前。その子どもをどう受け入れるか、無理であれば、どうするかを本人の考えに添うように一緒に考えていくのが大切だと思ふ。生徒が幸せにと言うのが、さて自分は幸せだろうかとか改めて考えてみると、何が幸せかわからなくなる。その生徒にとつての幸せとは難しい。
パネリストや高校生としてフロアから続々とテーマを深める積極的な討論の動向を注視しつつ、既存の学校の持つ魅力や課題を踏まえ、学校とは、学びとは希望を踏まえ、学校とは、参加者のそれぞれの思いを深めることができました。

県立学校総括安全衛生委員会

高ストレス者の割合は昨年度71%、今年度87%

…ストレスチェックの実施結果より

今年度の県立学校総括安全衛生委員会が2月22日に開催され、高教組から馬場書記長が委員として参加しました。委員会では、県立の高校・特別支援学校での安全衛生委員会の活動状況やストレスチェックの実施状況等が報告され、来年度のとりにくみ等についての協議が行われました。



ストレスチェックを職場環境改善につなげることが課題

教職員の健康に関わる問題では、近年、精神疾患の問題が大きくなっています。県立の高校・特別支援学校での精神疾患による病欠や病休の状況は別掲のとおりです。精神疾患の予防は労働者全体でも大きな課題で、そのために、昨年度から、50人以上の全ての職場でストレスチェックを実施することが、法律で義務づけられました。

各個人だけでなく、各職場の集団分析の結果が、各学校の校長に連絡されます。今年度の集団分析の結果では、仕事のストレスに関する問題が職場で生じている場合が多いとされる数値、総合健康リスクが120以上になった学校が2校あったことが明らかになっています。数値が基準を超えていなくても、業務量や人間関係によるストレスの状況についての職場全体の数値も明らかにされています。学校分析の結果について、各学校の安全衛生委員会でしっかり協議して、職場環境の改善につなげることが大きな課題です。高教組の馬場書記長は、総括安全衛生委員会での問題について発言し、集団分析の結果について協議する必要性を校長会等を通じて改めて徹底することが確認されました。

来年度のストレスチェックは年1回(10~11月)で実施しては、ストレスチェックは年間1回の実施に戻して、10月下旬から11月上旬の2週間で実施することになりました。今年度については、福利厚生室の判断で、受検率が上がることを期待して2回実施されましたが、実際には受検者の分散化が見られ、受検率は下がってしまいました。そのため、毎年度同じ時期に実施することと定着化を図るとともに、経年変化比較等のデータ分析を行うことを理由に、年1回の実施にもどすことになりました。委員会の議論の中では、日程を固定化することで、安全衛生

委員会での議論の年間サイクルと重ねることの重要性も確認されました。具体的には、集団分析の結果が3月に校長に連絡されますので、次年度の1学期の安全衛生委員会で議論することになります。また、委員会では、来年度における各学校での安全衛生委員会活動の具体的なとりにくみの柱として、「過重労働による健康障害の防止対策の推進」「職場環境の改善」「メンタルヘルス対策の充実」などが確認されました。



県立高校・特別支援学校における精神疾患による休職及び病休の状況

①病欠休職者数と精神疾患による休職者の人数の推移

	18年1月初時点	2016年度	2015年度	2014年度
病欠休職者 (うち精神疾患)	18人 (9人)	24人 (13人)	21人 (14人)	24人 (15人)

②精神疾患による病休(1~6カ月)取得者の人数(性別・年代別)の推移

	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度
男性合計	16人	12人	14人	17人	13人
女性合計	12人	9人	16人	9人	4人
20歳台	2人	2人	1人	0人	1人
30歳台	8人	3人	6人	5人	1人
40歳台	11人	12人	14人	10人	9人
50歳台	7人	4人	9人	11人	6人
総合計	28人	21人	30人	26人	17人

※精神疾患による病休は180日までで、それ以上は休職となる。
病欠休職は連続3年までで、それまでに復帰できない場合は退職となる。

全教第35回定期大会

増やしているのは数ではない、仲間だ!

全教(全日本教職員組合)の定期大会が2月17・18日に開催され、長崎高教組からは本部役員と青年部部長が参加しました。



中村尚史中央執行委員長は、「安倍『教育再生』によって、教育そのものが政権の思惑を達成するための道具にされようとしている今こそ、教育では子どもが一番、子どものことを決めるのは父母・保護者・国民との立場で参加と共同の学校づくりを草の根からすすめる」と呼びかけました。「17年度開いの経過と総括」では、給付制奨学金拡大署名に保護者を巻き込んで展開したとりにくみや、新加入前年度超え、全教総合共済現勢回復などが長崎高教組のとりにくみが評価されました。大会討論は、2日間で65本の発言がありました。「英語なんかきらい。どうせ私、英語できないし」「先生、本音で答えていいの」という子ども

どもの声、「思つぎをするように保健室に来る」子どもたちの実態から出発し、職場・地域で共有し、共同を広げていくことの重要性が語られました。また、異常な長時間過密労働の解消のために、「全教の提言」も生かしたとりにくみが、全国で果敢にとりにくまれていることが明らかになりました。長崎高教組からは、片山青年部長が青年部再建について発言し、大きな拍手と激励をいただきました。高知の青年の「増やしているのは数ではなく、仲間だ!」という発言に、あらためて、仲間を増やしていくことの大切さを痛感した大会でした。



【支部・分会便り】

諫早支部 退職者慰労会

諫早支部の退職者慰労会は、2月27日(火)に、割烹利休において、本部の鍛冶副委員長、高退教の吉岡事務局長、そして、未組合員1名を含め、16名が参加して賑やかにとり行われました。今年度は、赤瀬先生(諫早)、早農、古門先生(諫早東)、吉田先生(希望ヶ丘特支)、錦戸先生(下窄先生・福野先生・永石先生(西陵))の7名がご退職でしたが、4名の先生方が出席されました。

なや交流の大切さを、改めて確認することができました。おいしい料理を堪能しながら、宴席は大いに盛り上がり、名残きぬ会となりましたが、最後は、地引希望ヶ丘分会会長の音頭で、退職者の未来、諫早支部の発展を祈念し、万歳三唱で締めました。

長崎北分会 退職者慰労会

2月2日、退職される永田分会長を囲んでの慰労会を未組合員も交えて行いました。

長崎工業全百分会 歓迎会

2月26日、転入2人と新規加入2人の分会歓迎会を開催しました。歓迎会に先立ち、本校建築科がミニ出島の修復をしている縁もあり、史跡出島を見学し、見聞を広げました。歓迎会には、若手の未組合員3名も参加し、40代の新規加入者が、これまで権利や休暇のことなどで組合にお世話になったので、これからは、恩返しが大変盛り上がった会となりました。

それぞれの先生に縁の深い方にお集まりいただき、昔話に花が咲きました。また、先生方のお話の中から、組合のきず



退職者を囲んで